私たちの愛情が、
多くの命を守ります！
ペットを最期まで
愛し続けるために

# 犬との幸せな暮らし ハンドブック

環境省
Ministry of the Environment

ペットを最期まで愛し続けること。
それは、殺処分を無くすための第一歩です

なぜ、私たちはペットを飼うのでしょう？
ペットと暮らして得られる幸せとは、
いったい何なのでしょうか？

ペットは私たち人間よりも、弱い生き物です。
しかし、その弱い生き物から、
私たちは多くの幸せをもらっています。
だからこそ、私たちはペットとの暮らしを
求めているのではないでしょうか？

私たちは最期まで愛し続けることを約束します！

年を重ねるにつれ、体のトラブルが増えてはくるけれど、健康管理をきちんとして、できる限り長生きさせてあげたいです

倍賞千恵子さん

生後3ヶ月で家族の一員となった柴犬の三郎くんは、2009年1月で14歳に。

「小さい頃から周りに動物がいなかったことはなくて、犬もこの三郎で8頭目くらいかしら。主人（作曲家・小六禮次郎氏）は猫派で犬は飼ったことがなかったものですから、『私がすべての面倒をみます』という証文を書いて、それでOKを貰ったのですけれど、主人はすぐに三郎の虜になって、一緒に世話をし始めましたね（笑）。このコがある手術を受けた時には、主人は心配のあまり、動物病院近くの懇意にしているお寿司屋さんで、友人たちに慰められて泣きながら待っていたくらい。私たち夫婦にとって三郎は子ども同然の存在。夜は川の字になって寝ていますし、行きつけのフランス料理店に三郎も連れて行くこともあるんですよ。三郎には健康で長生きしてほしいんです。そのためには、前にも増して健康管理をしてあげなくてはいけないと感じている昨今です」

何らかの事情で手放され、
殺処分されてしまう
たくさんの犬や猫たちがいます。
しかし、犬だけに限ってみれば、
その数はここ10年で、
3分の1近くにまで減少してきました。
いつかはこれを無くすために、
私たちにできることを考えてみませんか？

このハンドブックが、
そのためのヒントになりますように。

愛犬のために、私も健康に留意しなければ。
飼い主に先立たれたら、このコがかわいそうですものね。

**富司純子さん**

子どもの頃から動物好きで、犬や猫に囲まれていたという富司純子さん。現在はゴールデン・レトリーバーの坊太夫くん（3歳）と2匹の猫たちが家族の一員です。

「朝は毎日、5時頃になると『お散歩！』って私を起こします。近所の公園に30分から1時間くらい行きまして、帰宅後にご飯です。食事は手作りにしているんですよ。毎回作るのは大変なので、1度に何日分かを作って冷凍しています。最初に迎えた3頭の犬のうち1頭は17歳まで生きましたが、次に来たコは、9年目に乳がんで亡くなってしまって……。その時の悲しさから（もう飼うのはやめよう）と思ったのですが、大型犬のいない生活はどうにも寂しくて、坊太夫を迎えることになったんです。ですから、坊ちゃんにはできるだけ長生きしてほしい。それだけが望みです。でもそのためには、私も健康でなくてはいけませんね。飼い主に先立たれた犬はかわいそうですもの」

# 第1章
# 犬がくれる幸せ

今や日本全国の、3世帯に1世帯がペットと暮らしている時代です。
中でも犬は、飼い主の心を癒す家族、仲間、友だち。
大きな存在です。そんな犬とともに暮らす幸せについて、考えてみましょう。

## ストレス社会に生きる人の心と体を癒す

現代人の生活は、さまざまなストレスに満ちています。ところが犬を飼っている人たちの多くが、外でつらいことがあっても、帰宅して犬を抱いたり、なでたりしていると〝気持ちが和らぐ〟と言います。また、夜遅く、何時になっていても、飼い主の帰宅を喜んで迎えてくれるのが犬です。

犬は飼い主のストレスや孤独感を軽減し、心を癒してくれます。そして面倒を見なければならないこと、守ってあげるべき存在であることが、責任感や自信につながっていき、時には新しい生きがいにもなるのです。

さらに最近、注目されているのが犬のセラピー効果です。ペットの犬にふれていると、血圧が下がり、心拍数が安定するというデータが数多く報告されています。犬とともに暮らすことは、それだけで飼い主の心と体の健康に大いに役立っているのです。

ではなぜ、犬にはこうした癒しの能力があるのでしょうか。

犬は群れを作って暮らす動物です。そこには必ず仲間を統率するリーダーがいて、リーダーの心の動きが、群れ全体に共有されるといいます。人とともに暮らすようになった現代の犬たちにとって、群れの仲間は人間の家族。リーダーは飼い主です。飼い主の喜びが犬の喜びとなり、無条件に愛情を向けてくれる。他人と比べて不満を言うこともありません。そのことに、人は癒されると考えられています。

### 人と仕事をすることが犬の喜び

犬の能力は科学的に検証され、高い評価を受けています。もともと犬には、牧畜犬や山岳・海難救助犬、ソリ犬、盲導犬といった狩猟以外のさまざまな仕事をする使役犬、作業犬として人とと

もに暮らしてきた長い歴史があります。彼らは仕事をすることを喜びとする犬たちです。

中でも、注目されているのが阪神・淡路大震災などで活躍した災害救助犬。そして、動物介在療法として高齢者や障害者にセラピー活動を行っているセラピードッグです。犬とのふれあいによって、人の心身の健康にさまざまな効果が期待されています。

## 地域社会での交遊が広がる

定年をひかえた世代に、犬を飼い始める人が増えています。ふと気がつくと子どもたちは独立し、奥さんは自分の楽しみや趣味を見つけて忙しく、これといって趣味もないお父さんはひとり置いてきぼり。これまで地域の活動にも参加していなかったため、地域社会にもなじみにくい……。思いあたりませんか？

犬がいると、地域社会とのつながりをもちやすくなります。たとえば、犬の散歩をしながら不審者、不審車両がいないか、犯罪や事故につながりやすい場所がないかなどをチェックする防犯パトロール隊を始める地域も増えています。

こうして犬を介して知り合う飼い主仲間は、仕事の関係で知り合った人たちとはつきあい方が違うのも大きな特徴です。つまり、地位や肩書き、収入などを競い合うストレスがないのです。犬がいることで家族や同じ地域で暮らす住民と共通の話題が増える。犬は、人間関係の潤滑油にもなっています。

飼い主と同じように、犬も豊かな感情と、1頭1頭、異なる個性をもっています。家族に迎えたら、犬の気持ちも尊重してあげましょう。よく観察すると、犬の気持ちはボディランゲージとして表れています。

たとえば、ある人が、生まれて間もない子犬のいる家を訪ねた時、こんなことがありました。母犬は子どもが心配で、知らない人にはさわらせたくありません。ストレートな表現をする犬なら訪問客に「ウゥッ」と唸ったりするものですが、その母犬はやさしい性格だったので、訪問客と子犬の間に横たわり、自分をなでさせました。これは、身を挺して子犬を守る行動だったのです。

少し注意深く犬を見ると、犬が発しているメッセージがわかってきます。飼い主が犬の気持ちをわかろうとして見るようになると、犬が飼い主を見る目も変わってきます。子犬を守った母犬の場合も、犬が訪問客に対してしたことを飼い主が理解し、「えらいね」とほめてあげると、それが犬にとっての自信になるのです。犬のボディランゲージを理解しようとすることが、犬と飼い主の信頼関係を築くためには、もっとも大切なことなのです。

### 叱るだけではなく、褒めて育てる

たとえばトイレを教える場合。粗相をしてしまった時、犬をたたいたり、粗相した場所に鼻をこすりつけて叱ったりすることが〝しつけ〟、といわれたことがあります。でも、自分の子どもに対して、そんな叱り方をする人がいるでしょうか。失敗を叱るのではなく「ここでしてね」と教えてあげればいいのです。そうすれば、叱られることを恐れて、隠れてするようになったり、我慢して調子を崩してしまうようなこともなく、スムーズに排泄できるようになります。

上手にできた時に飼い主が喜ぶことで、犬はとてもうれしくなり、さらに喜んでもらえる行動をとりたいと思い始めます。

## 第2章
# 犬とのコミュニケーション

犬と人の関係は、大きく変わりました。
昔は犬は庭先にいて、飼い主とは別々の生活がありましたが、
今は両者が密接な関わりをもつことが多くなっています。
犬とのコミュニケーションの取り方次第で、心のつながりのある関係が育まれます。

これが人の子どもと同じ、「褒めて育てる」ということなのです。

## 飼い主が望むことをしてくれるようになる

他にも、犬と飼い主の信頼関係を深める方法はいろいろとあります。犬には、触られることを嫌がる体の部位――耳や目の回り、口、足の先や肉球、お尻と尾など、とても敏感な部分――があるのですが、その感じやすくデリケートな場所を触りながら、優しく褒めてあげるのです。少し嫌がる様子を見せても、「大丈夫よ」などと励ましながら触りましょう。すると犬は、嫌だけれども我慢することを覚え、また、我慢すると褒めてもらえることなどが分かり、少しずつ我慢が上手になっていきます。そうなると、これから起こるかもしれないたくさんの苦手な経験も、上手に乗り越えることができる犬になるのです。

また、このようなスキンシップは、犬の病気やさまざまな体の異変の早期発見にもつながり、犬の健康を守ることにもなります。

こうして犬と飼い主に心のつながりができて、コミュニケーションがうまくいくようになると、命令や指示をしなくても、犬が飼い主の望むことをしてくれるようになります。

気がついたら、キッチンで食事の支度をしている時にまとわりつかなくなった。カフェにいる時、落ち着いて足元にいられるようになった。洗ったばかりの洗濯物に乗らなくなった。テレビを見ている時に、静かにしているようになった――。

毎日、よく観察し、犬の成長を褒めてあげることで、犬と飼い主の関係は明らかに変わってくるのです。

# 第3章
# 犬との生活を楽しむ

犬は人の心がわかる動物といわれます。このストレス社会にあって、
犬が飼い主の心を慰め、癒した例や、家族の絆を深めた例は数えきれません。
犬との生活がもたらす楽しみ、幸せを実例でご紹介します。

## 子犬のぬくもりに癒された…徹さんの場合

徹さん（20代）は、グラフィックデザイナー。将来を嘱望され、大きな仕事をまかされるようになって、毎日忙しくバリバリ働いていました。成果を認められれば認められるほど、負担はどんどん増していく――。そんなある日のこと。徹さんは突然、自室から出て来なくなったのです。

徹さんは、極度のストレスと過労で、気力、体力が落ち込んでしまったのでした。ご両親はどれほど心配したことでしょう。けれども、力づくで部屋から出すわけにもいかず、いたずらに心を砕くばかりの日々が続きました。

知人に勧められて、ご両親が子犬を飼い始めたのは、そんな時のことです。好奇心いっぱいで、やんちゃな子犬は家中を駆け回り、ほどなくして家族の共有スペースと、徹さんの部屋を行き来し始めました。

### 子犬をきっかけに、家族とリビングで過ごせるように

どんな時でも子犬はご機嫌。徹さんに遊びをせがみます。なでてあげれば全身で喜びを表し、ふさぎ込んでいれば、案じるように顔をのぞき込む。肌に感じるぬくもり。自分をひたむきに頼る、小さな命。何事にも関心がもてなくなっていた徹さんでしたが、子犬との生活に何かを感じ取り、心を動かされたようでした。

ほどなくして、朝、キッチンで、子犬にドッグフードを与えている徹さんの姿がありました。そしてこれをきっかけに、子犬といっしょに家族のいるリビングで過ごせるようになったのです。徹さんの表情は少しずつ明るさを取り戻し、通院治療を始めました。今ではデザイナーの仕事も再開しましたが、朝のフードと散歩は、あれからずっと、徹さんの担当です。

# 家族旅行は犬と一緒…哲史さん一家の場合

アウトドアやスポーツが好きな哲史さん(40代)一家は総勢4人と1頭。奥さまの由美さん(40代)、巧くん(11歳)、優香ちゃん(8歳)、そして子どもたちの大好きな犬、ボンボン(2歳)です。

毎年恒例の夏の家族旅行を計画する時期になりましたが、巧くんが乗らない様子でした。「僕、ボンボンと留守番してちゃダメかな……」。

サッカー少年の巧くんは、家族旅行よりサッカーの練習に参加したいようなのです。そろそろ「家族より友だちと遊びたい年頃なのかもしれません。

でも、1人で留守番させるにはまだ幼い。それに、いずれ大きくなれば別々に休暇を過ごすことになるのなら、今は家族の時間を楽しみたい――。ご両親は一計を案じました。ボンボンを旅行に連れて行くことにしたのです。

## 人も犬も楽しめる観光施設が増えています

最近、犬連れOKの観光地や宿泊施設が増えてきました。地域で犬を受け入れ、観光客を誘致しているような場所もあります。広々としたドッグラン、犬も入れるプールや温泉を備えたホテル、料理が評判のオーベルジュも……。

「今年はボンボンも一緒に泊まれるところに行くんだよ。プールもアジリティーもあって、楽しそうなんだよなぁ」

ボンボンも一緒! すると巧くんはあっさり「ボンボンが行くなら僕も!」。

夏、青空の下でころがるように走り、飛び跳ねる犬と子どもたちの輝くような笑顔がありました。「来年もまた来ようね」と巧くん。見守るご両親は、言葉にはできない幸福感に満たされていました。

## ”かすがい“になった犬…忠之さん、佳子さんの場合

忠之さん（60代）は手広く事業展開していた実業家。けれども、経済不況の影響で事業のほとんどを手放し、自宅も整理して小さな借家住まいになったのです。

狭い家の中でいら立ち、人が変わったようにつらくあたる忠之さんに耐えきれず、奥さまの佳子さん（50代）は、家を飛び出してしまいました。アパートでひとり暮らしを始めた佳子さんは離婚も考えましたが、別れられない理由がありました。犬のラッキー（11歳）を、忠之さんが手放さないのです。

### 人の悲しみを察して慰める犬の能力

ラッキーは佳子さんが大好き。佳子さんが泣いている時は、そっと足元に寄り添ったり、涙をなめたりします。2人が口論すると間に割って入り、顔を見上げて悲しげに鳴くのです。そんなラッキーを見ると、佳子さんは切なくなって、別れる時は絶対にラッキーは自分が引き取りたい、と思うのでした。

「私たちが想像する以上に犬は感情豊かだし、人間の感情も理解しているような気がします」と佳子さん。

佳子さんは、犬の世話と散歩のために忠之さん宅に通い、日中は忠之さんの仕事を手伝って、夕方になるとアパートに帰るのを日課にしています。一時は深刻だった夫婦関係でしたが、最近は経済状態が上向いて生活にも余裕が生まれ、少しずつ、2人の間に会話が増えてきました。佳子さんは言います。

「私たちがやり直せるかどうかは、まだわかりません。でも、ラッキーと一緒の時は、主人も以前のように穏やかになるんです。ラッキーがいなかったら、私たちはとっくに壊れていたと思うんです」

## 悩むこともあるけれど…健一さん、美恵子さんの場合

健一さん（60代）、美恵子さん（50代）のご夫婦は、子犬を飼い始めたとたん、健一さんが病気で倒れ入院してしまいました。看護をするために、美恵子さんはやむなく子犬を毎日ケージに入れて病院へ。健一さんはやがて元気を取り戻して退院しましたが、幼い時にひとりぼっちで〝社会化〟を学ぶことができなかった子犬は、健一さんや美恵子さんを咬むようになってしまったのです。

困り果てたふたりは、動物看護師に相談。アドバイスを受け辛抱強く犬と向かい合いましたが、なかなか咬み癖は直りません。そんな時、心の支えになったのは、散歩で出かける公園で知り合った犬の飼い主仲間たちでした。「彼らがいなかったら、飼育をあきらめていたかもしれません。今はこのコもずいぶん穏やかになって、甘えるので可愛くて」と微笑む美恵子さんです。

### かけがえのない命を守りましょう

犬は、不調を言葉で訴えることができません。犬の健康は飼い主の世話や対応次第。日頃のヘルスチェックで病気を早期発見できれば、愛犬の負担は軽くなり、さらには飼い主の経済的な負担も抑えられます。

#### ヘルスチェックのポイント

今日の元気、食欲、排泄、毛づや、歩き方や座り方はどうですか。むやみに水を欲しがったり、涙、鼻水は出ていませんか。よだれが多い、セキやくしゃみをするといった変化はありますか。

ブラッシングや耳そうじ、歯みがき、爪切りなどを通して飼い主と愛犬の信頼関係を深めると同時に、全身の皮膚の様子やしこり、口や耳のにおいなどをチェックしましょう。

また、予防できる病気で愛犬を失うことがないように、定期的に健康診断を受けたり、予防接種をさせることも、飼い主の愛情です。

# ひとりで悩まないで！

## 本当に、愛犬を手放さなければならないのでしょうか

犬を継続して飼えなくなる理由は、さまざまです。転勤先で犬を飼えない。家族がアレルギーになった。飼い主が入院（または死去）した。失業した、等々。こうした家庭の事情もあれば、犬が家族を咬んで手に負えない。吠え続けて近隣トラブルになった。不治の病にかかった。高齢で痴呆になったなど、犬の問題行動や病気に悩む人もいます。

家族として迎え、ともに暮らした愛犬のことです。ひとりで悩んだり、飼育放棄する前に、飼い主として、まだ何かできることがあるのではないでしょうか。

## 相談に乗ってくれる人たちはこんなにいます

問題が生じたら、もう飼えないとあきらめる前に、身近な人や専門家に相談しましょう。まずは、獣医師やトリマーと話してみてください。その他、動物看護師、ドッグライフカウンセラー、ドッグトレーナーなど、ペット問題の専門家もいますので、インターネットなどで調べてみてもいいでしょう。

相談内容によっては、しかるべき専門家を紹介してくれることもあります。また、地方自治体の動物愛護（管理）センターなどでも相談に乗ってくれます。飼い主仲間にも、同じ悩みを分かち合える人がいることでしょう。

第三者に話すことで、解決策が見つかるかもしれません。理解者を得て、情報の輪が広がることも期待できます。

# 殺処分をなくそうと頑張っている人たちがいます

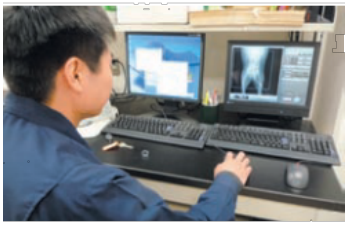
## 動物愛護（管理）センターの新たな取り組み

自治体の中には、動物愛護（管理）センターを設置しているところもあります。多くの犬や猫が持ち込まれ、殺処分されるという悲劇を少しでも改善しようと、さまざまな試みがなされています。今回はそのひとつ、愛知県岡崎市の「動物総合センターAnimo（あにも）」をご紹介します。

「あにも」は岡崎市民の憩いの場である、東公園の敷地内にあります。広大な公園内には無料の動物園（東公園動物園）もあり、「あにも」は、動物園と小道を隔てた場所に2008年3月、建てられました。こちらでは、岡崎市の動物に関するすべての業務――目の前にある東公園動物園の動物の飼育、診察、治療はもちろん、野生動物の保護、市内の産業動物（牛、豚等）の治療や出産の補助など、そして犬や猫などの保護も――を行っています。「人と動物のより良い関係づくりの場」として、動物に関する、より専門的な相談体制を整備したのです。

ここはまた、広く市民に開かれた場所でもあります。1階には動物に関する書籍や雑誌を集めたライブラリー（図書コーナー）があり、誰でも自由に入館し、利用することができます。また「ふれあいコーナー」には、あーくん、にーちゃん、もーちゃんの3匹の猫が飼育されていて、訪れる人たちをなごませ、多目的ホールでは、しつけやマナーについての講習会などが定期的に行われています。

そして「あにも」では、殺処分される犬や猫たちの命をひとつでも多く救うために、「家族探し」も開催しています。職員の皆さんは今日も、必死で頑張っているのです。



（上）保護された犬たちは病気のチェックを（必要な場合はワクチンの接種も）受け、新しい家族を探す。（中）骨折した猫のX線画像を確認。（下）公園に隣接

# 殺処分の運命から逃れ、幸せに暮らす犬もいます

## 宮崎県中央動物保護管理所で起こったひとつの奇跡。「ひまわり」のストーリー

日本全国の保健所や動物愛護（管理）センターなどでは、多くの犬や猫が保護されています。捨てられたり、迷子になっていて捕獲されたり、あるいはさまざまな事情から引取られたものの、次の飼い主が見つからずに殺処分となってしまう尊い命。その数は、年間約30万頭です。

しかし、職員さんや民間のボランティアの方々の、ひとつでも多くの命を救いたいという思いと努力が実り、新しい飼い主が見つかって、今は幸せに暮らす動物たちもいます。

2007年2月7日、住民の通報により、宮崎県で1頭の雌犬と3頭の子犬が捕獲されました。まだ目も開かず、歩くこともできない子犬たち。「子どもを置いていけば逃げられたのに、母犬はまったく逃げようとしなかった」――この母犬は、檻に入れられたのちも、子犬たちを守るために、近づく人間を激しく威嚇し、吠え続けました。一方、子犬たちにはやさしく、1日中側を離れずに面倒を見ているのでした。

必死で我が子を守ろうとする母犬と、「なんとか命を助けたい」と願う管理所の職員さんたち。本来、命の期限は7日間ですが、職員さんの努力により期限が3週間に延長されました。そして、人間不信に陥っている母犬に「何もしないから大丈夫だよ」と毎日、檻の外から話しかけ、辛抱強く世話を続けたある日のこと。いつもは威嚇する母犬が、じっと座ったまま職員さんを見つめ、自分の体を触らせたのです。「うちのコになるか？」――奇跡の起こった瞬間でした。

「もう野良犬じゃない。人間におびえなくても大丈夫。太陽の下を堂々と歩けるよ」という思いを込めて、この母犬は「ひまわり」と名付けられました。今は人に甘える心地良さも、褒めてもらった時のうれしさも覚え、職員さんと一緒に幸せに暮らしています。しかし「ひまわり」のような出来事は本当に稀有なことです。この幸運の陰には、何頭もの処分されてしまった犬たちがいることを忘れないでください。

## 年間約30万頭の犬猫が殺処分されています

～環境省からのお願いです～

**飼う前によく考えましょう。**

「動物を飼う」ということは、一生、責任をもってその動物の面倒を見るということです。
動物を飼う前に家族全員でよく話し合いましょう。

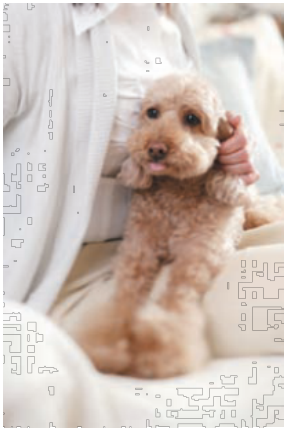
Check Point

- ●飼うことができる住まいですか。
- ●転勤の予定はありませんか。
- ●家族全員が飼うことに賛成ですか。
- ●家族に動物アレルギーの方がいませんか。
- ●毎日欠かさずに世話ができますか。
- ●近隣に迷惑をかけることなく飼うことができますか。
- ●一生面倒を見るために必要な経費を想定していますか。
- ●万一飼うことができなくなった場合のことを想定していますか。

**繁殖制限しましょう。**

一般家庭で飼われている動物のほとんどは、自由に繁殖できる状況にあると、あっという間に数が増えてしまいます。次々と生まれてくる動物をすべて飼うことや、責任ある新しい飼い主を速やかに探すことには限界があります。また、きちんと世話のできる数以上の動物を抱えてしまうと、掃除が行き届かなくなったり、気配りができなくて健康を害してしまうなど、動物を苦しめるばかりでなく、臭いや鳴き声などで近隣にも大きな迷惑をかけてしまいます。
不妊去勢手術は、望まれない命を生み出さないためには、とても効果的です。繁殖などに関するストレスをなくすので、動物にとっても、健康面や行動面でさまざまなメリットがあります。

※関係法令「動物の愛護及び管理に関する法律」
（昭和48年10月1日法律第105号）
http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S48/S48H0105.html



**動物を迎えたい……と思った時、動物愛護（管理）センターなどに保護されている動物たちのことも、思い出してください！**

新たに動物を迎えようと思った時、ペットショップやブリーダーを見に行くだけではなく、お近くの保健所や動物愛護（管理）センターなどに保護されている犬や猫たちのことも、思い出してみてください。環境省の「収容動物データ検索サイト」では迷子の動物や、新たな飼い主を待っている動物の検索を行うことができます。また、各自治体の保健所や動物愛護（管理）センターも、検索サイトを設けたり、譲渡会の情報を告知しています。

**環境省**
**「収容動物データ検索サイト」**
**http://www.jawn.go.jp/**

※インターネット上に情報を公開していない自治体もあり、すべての自治体が検索できるわけではありません。

環境省
Ministry of the Environment
発行
環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2
http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo
平成21年3月発行

企画制作
特定非営利法人ボーダー基金

協力
株式会社ワンオンワン woofwoof ウフウフ

※お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市の担当窓口へ

みんなで止めよう温暖化
チーム・マイナス6%